

第3回 まつど未来シナリオ会議 次 第

令和元年9月7日（土）13時～17時
市民会館 301 会議室

1 開会

2 まつど未来シナリオづくり

- 1) 複数シナリオのつくり方
- 2) 「2030年の日本における私たちの暮らし」複数シナリオ（案）
- 3) 複数シナリオについてのワーク
- 4) 今日の振り返り

3 閉会

資料

- ・まつど未来シナリオづくり（第3回）

まつど未来シナリオづくり (第3回)

松戸市総合政策部政策推進課
委託先：株式会社スタイリッシュ・アイデア



今日の流れ

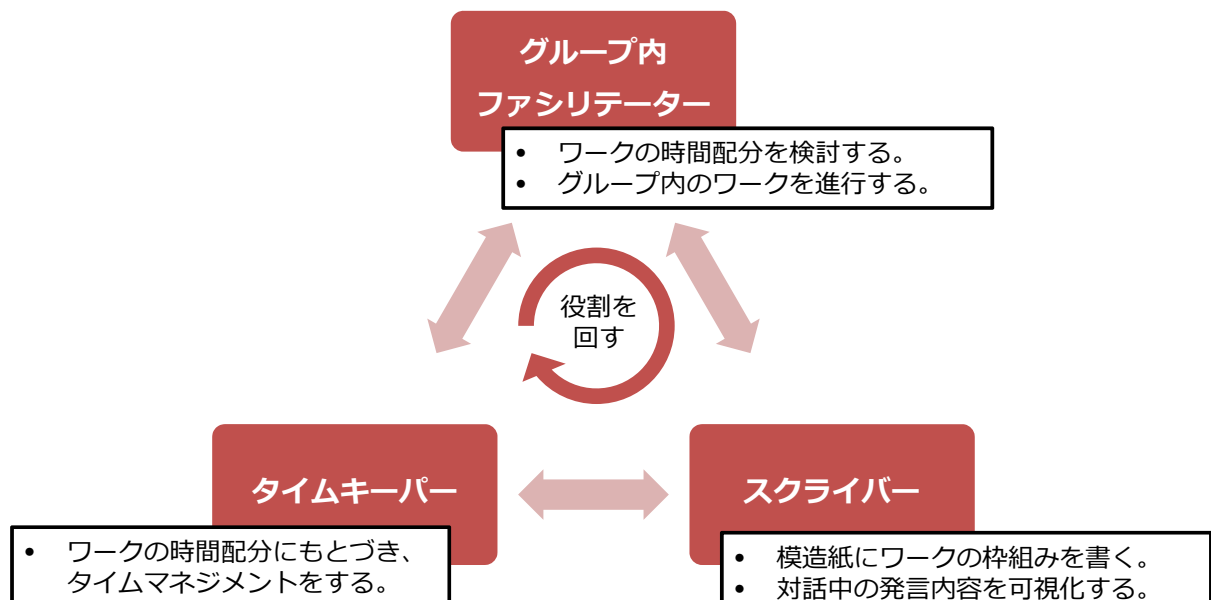
1. 複数シナリオのつくり方
2. 「2030年の日本における私たちの暮らし」
複数シナリオ（案）
3. 複数シナリオについてのワーク

チェックイン

1. 今日の気分・体調を教えてください。
2. 2030年のベースシナリオを思い出して、個人として今から取り組んでいこうと思ったこと。

グループワークの役割分担

- ▶ 会議ではさまざまなワークを行います。グループの中で役割を交代しながら進めてください。



ワーク中の話の終わり方

演習を終えるタイミングで私が手をあげます。

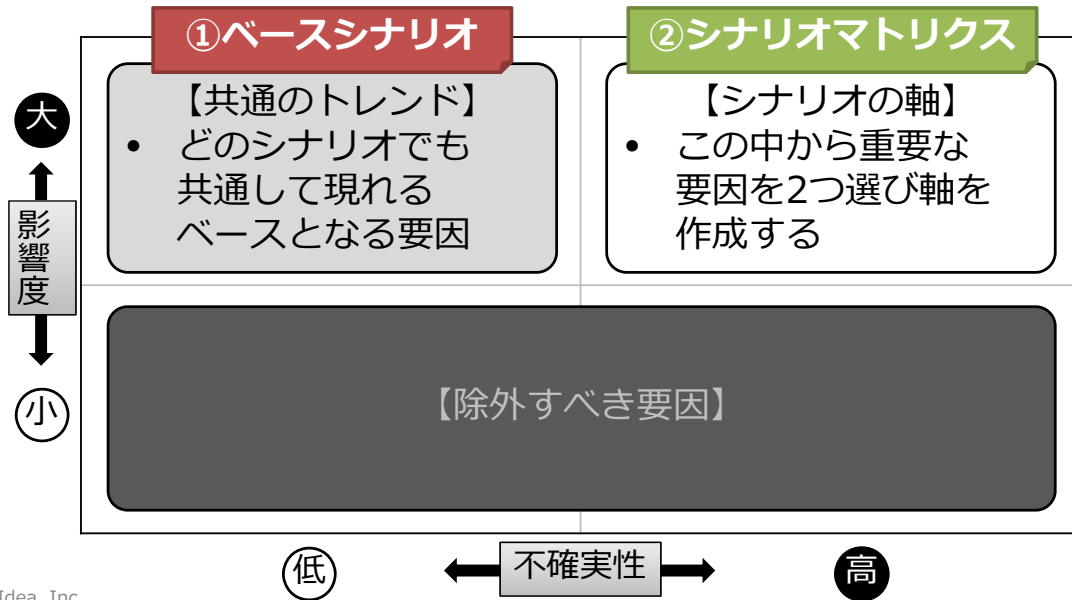
それに気がついた人は**同じく手をあげて、
話しを終わりにしてください。**



1. 複数シナリオのつくり方

不確実性の分類結果の意味

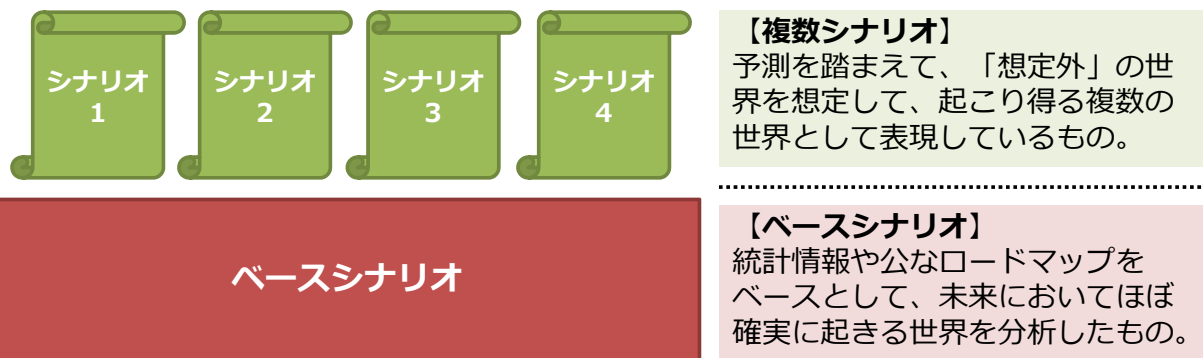
- ▶ 左上の要因は2030年の状態をほぼ確実に特定できるもの。
 - ▶ その中でも「日本における私たちの暮らし」に与える影響が大きいものを中心に考えるのがベースシナリオ。



ベースシナリオの意味

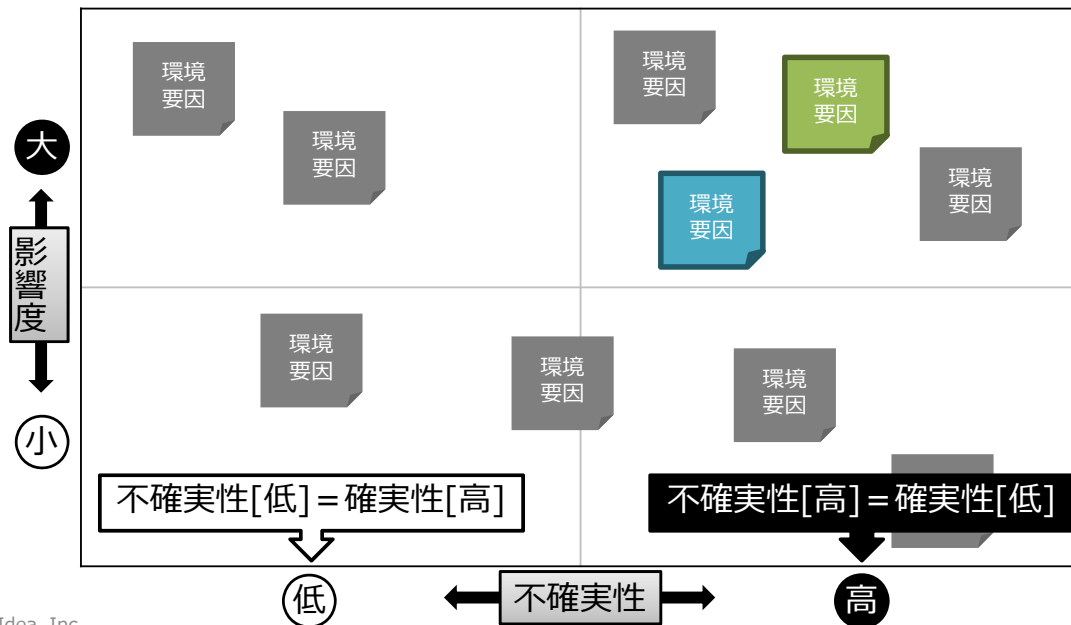
- ▶ ベースシナリオとは設定したテーマにおいて「こうなる」とほぼ確実に特定できる世界について表したもの。
 - ▶ どのような複数シナリオにも共通して起きる要因を集めたシナリオ。
 - ▶ ほぼ確実に起きる要因を明らかにすることで、不確実な要因（起きるかどうかわからない要因）が明確になる。

シナリオプランニングの構成



複数シナリオの作成

- ▶ 右上の象限にある外部環境要因から2つの要因を選ぶ。
 - ▶ この2つから軸を作り、複数シナリオを作成する。



© Stylish Idea, Inc.

9

複数シナリオの軸の検討方法

- ▶ 選んだ2つの要因の両極端な実現可能性を考える。
- ▶ まずは軸にとらわれずさまざまな可能性を検討して、その中で両極に置くことができるものを探す。



- ▶ まずは軸にとらわれずさまざまな可能性を検討して、その中で両極に置くことができるものを探す。
- ▶ 軸の両極の考え方の視点（AIを例にして）
 - ▶ 【活用されていない←→活用されている】
 - ▶ 【事務作業の代替←→知的作業も代替】

© Stylish Idea, Inc.

10

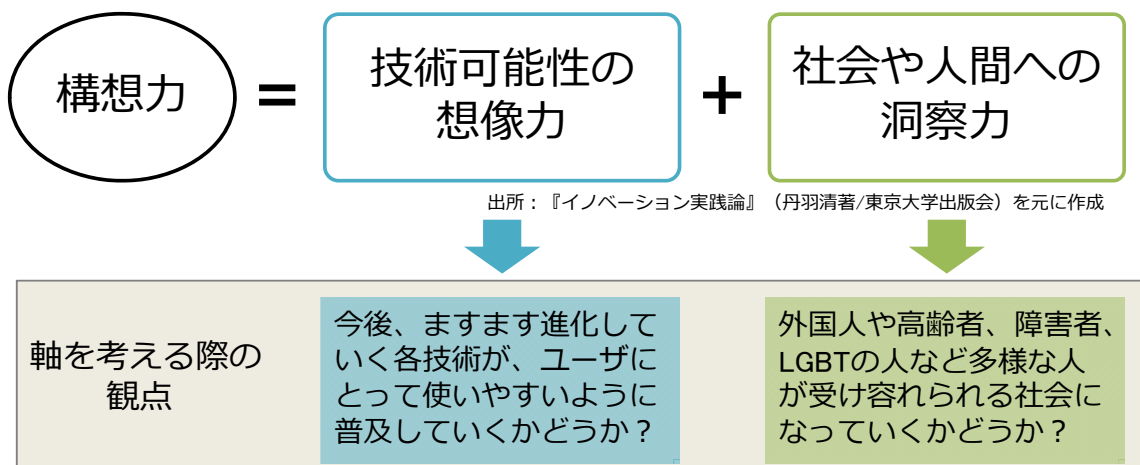
今回の会議で出された「不確実」な要因

- ▶ 複数シナリオ（案）の軸の候補となる要因を分類した。

分類	不確実な要因一覧
社会	大規模災害、宗教の多様化、テレワークの普及、遠隔医療完全導入、震災の発生、食糧難、平均寿命90歳、地震、治安悪化、世界的な人口移動、消費のシェア、認知症・感染症の増加、戦争・テロ、週休3日、富の二極化、価値観の多様化、パーソナルデータの提供、失業者の増加、外国人への介護の必要性増加、LGBTQが広がる、外国人移民の増加
技術	AI等の技術進化、知的AI、仮想現実・拡張現実、AI・ロボット普及、技術革新、医療ID導入、AIの進歩、知的な人工知能の普及、再生医療普及、ロボットの普及、宇宙産業の進展、遺伝子操作、公立学校の教科書デジタル化
経済	仮想通貨の日常利用、増税、シェアエコノミー、定年延長、為替の変動、ふるさと納税の増加、中小企業減少、生産性向上、観光人口増加、非正規雇用増加（多様な働き方が当たり前になる）、テレワークの発展
環境	天然資源減少、自然エネルギーへの転換、温暖化による海面上昇、食品ロス、賃金低下、二酸化炭素削減目標の達成、水素社会、資源をめぐる紛争、気温上昇
政治	税金負担増、自由貿易、教育制度改革、教育無償化、社会保険破綻、ベーシックインカム、消費税増税、自治体の消滅、移民受入れ、米中の圧力、憲法改正、マイナンバーカードの普及

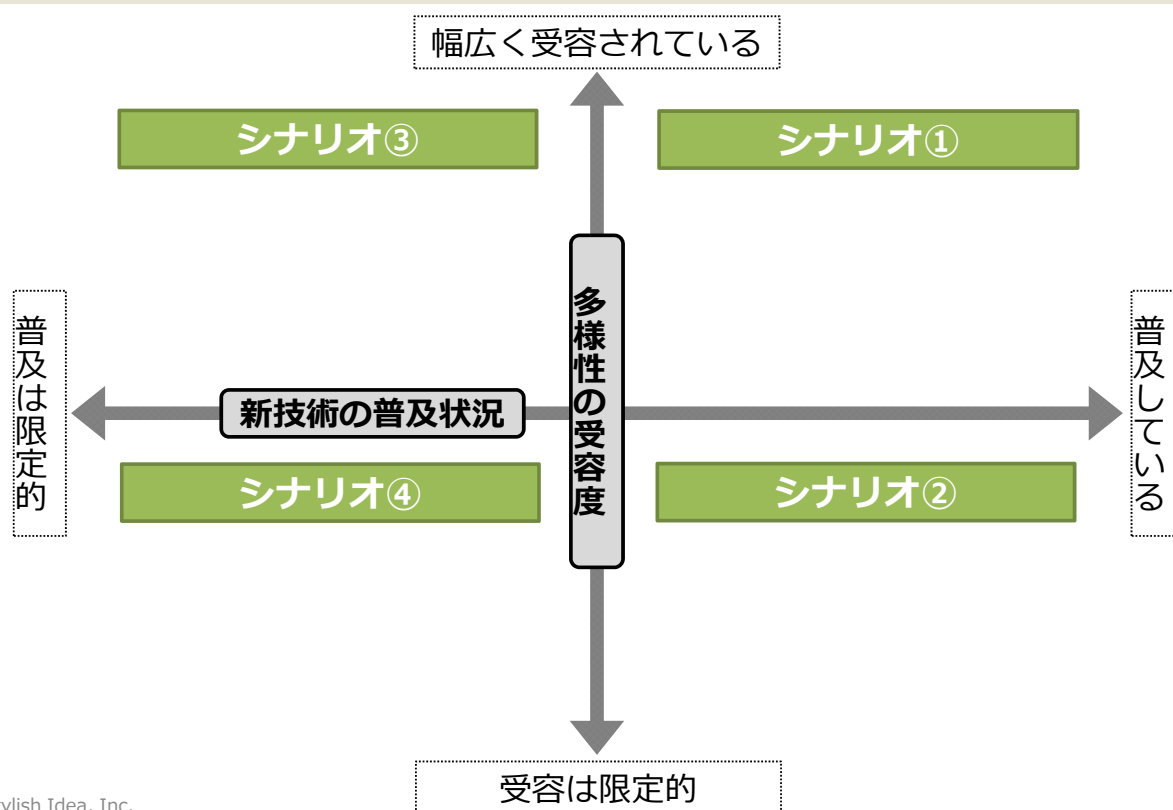
今回の会議での複数シナリオ（案）の軸選定の考え方

- ▶ 未来を構想するための考え方（下図）を元にして今回の会議で出された不確実な要因から軸を検討。
- ▶ さらに「さまざまな立場の人が松戸市の将来を多面的に見ることができるかどうか」という観点で評価。



2. 「2030年の日本における私たちの暮らし」 複数シナリオ（案）

「2030年の日本における私たちの暮らし」 複数シナリオ案



未来への分岐点（軸の考え方）： 横軸「新技術の普及状況」について

- ▶ 通信(5G)やセンサー、人工知能などの要素技術をはじめ、それらを組み合わせたIoTや自動運転などの個々の技術進化は2030年に向けて進んでいくと予想できます。
- ▶ しかし、普及のためには、次の2つの観点を考えなくてははいけません。

サービス統合の観点

- ・まずは複数の技術や製品・サービスを統合するシステムの考え方がカギとなります。例えば、いま注目されているMaaS（Mobility as a Service、サービスとしてのモビリティ）を実現するためには、単に自動運転車などを活用するだけでなく、それらを既存の交通システムと連携させ、統合的に運用する仕組みをつくらなくてははいけません。2030年に向けて、個々の技術開発に加え、そのような観点での導入に向けた取り組みまでできるかどうかひとつの分岐点です。

ユーザにとっての利便性の観点

- ・また提供側としてサービスを統合できたとしても、それがユーザにとって使い勝手の良いものでなければ幅広い層への普及は進みません。さらにいくら便利でもコストが高ければ頻繁には利用されないでしょう。ユーザにとって利便性がある提供ができるかがもうひとつの分岐点です。

未来への分岐点（軸の考え方）： 縦軸「多様性の受容度」について

- ▶ 世界経済フォーラム（World Economic Forum）が毎年発表しているジェンダー・ギャップ指数では、日本は引き続き男女の格差が大きい国として知られています^(*1)。
- ▶ そのような観点に加え、2030年の「多様性」を考える際には次の2つの観点を考えなくてははいけません。

属性の観点

- ・多様性を考える際、男女の違いだけではなく、高齢者、障害者、外国人、LGBTなど、年齢や身体的な状態、国籍、志向などの観点からも考えなくてははいけません。そのような幅広い観点からの違いが制度に加え、本当の意味で尊重され、あらゆる人にとって暮らしやすい社会になっているかどうかひとつの分岐点です。

行動の観点

- ・また働き方など、私たちの日々の行動でも多様な考え方を持っているや選択を希望する人がいます。そのような考え方や選択が尊重され、制度として認められているだけではなく、それぞれの人の考え方やライフステージによって最適な選択をしやすい社会になっているかどうかもうひとつの分岐点です。

2030年、日本における新技術の普及状況は？

新技術の普及状況

普及は限定的

普及している

「普及は限定的」世界のイメージ

- 【サービス統合】個々の技術は進んでいるものの、サービスとしての統合は十分に進んでいない。提供事業者が重点を置く地域や自治体の取り組みの差により、普及の程度に地域差がある。
- 【ユーザ利便性】サービスごと、利用する端末ごとに使い勝手の違いがあったり、使えない場合もある。また利用コストの観点からも使いやすいものとはなっていない。

「普及している」世界のイメージ

- 【サービス統合】個々の技術を活かすため企業間の製品・サービス連携や法制度の整備が進んでおり、つなぎ目のないサービス提供が実現されている。
- 【ユーザ利便性】サービスごとに使い勝手が統一されており、技術に慣れていないユーザにとっても使いやすいものとなっている。また利用コストもメリットに見合ったものとなっている。

2030年、日本における多様性の受容度は？

多様性の受容度

受容は限定的

幅広く
受容されている

「受容は限定的」世界のイメージ

- 【属性】個人の属性の違いを尊重するための制度や仕組みは整っているものの、実際の暮らしではその違いが尊重されにくい社会となっている。
- 【行動】働き方などの多様性を認めるための制度や仕組みは整っているものの、実際にはそれらを活用しにくい状況が残っている。

「幅広く受容」世界のイメージ

- 【属性】個人の属性の違いにかかわらず、あらゆる人が暮らしやすい社会の仕組みが整備されており、それが幅広く受け容れられている。
- 【行動】働き方などの多様性が制度としてだけでなく、幅広く受け容れられており、それぞれの人の状況に応じた選択をしやすい社会になっている。

3. 複数シナリオについてのワーク

ワーク①：複数シナリオについての対話

- ▶ 複数シナリオを見て、それぞれのシナリオがどんな世界になっているか、想像してみましょう。
 - ▶ 次ページにのせた書式をテーブル上のA3用紙に書きます。
 - ▶ 各シナリオがどんな世界になっているかを個人で想像し、思い浮かぶことを付せんに書きます。
 - ▶ その際、ベースシナリオでも検討した6つの切り口の名称を付せんの右下に書いておいてください。
 - ▶ 個人で考えたあと、班内で、お互いが出した付せんについて質問したりしながら、さらに中身を深めるための対話をしてください。

ワーク②：全体での共有

- ▶ ワークの内容をチームの枠を超えて対話をします。
- ① 各チームのA3用紙を該当の切り口のテーブルに置きにいきます。
- ② 自分のチームのメンバーが均等に分かれるように各テーブルに移動し、そこで他チームが書いたものも見ながら対話をします。
 - 4ラウンド行います。全員がすべてのテーブルをまわります。
 - 対話しながら新たに追加したい観点が出た場合、付せんに書いて、書いた人自身の班のA3用紙に追加してください。

